

# 土砂災害専門家ならびにTEC-DOCTORによる山腹崩壊箇所の調査

■7月5日豪雨災害による国土交通省の支援  
7月6日：九州地方整備局緊急災害対策派遣（TEC-FORCE）による現地調査  
7月6日：九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター（TEC-DOCTOR）による現地調査  
7月8日：土砂災害専門家（国立研究開発法人土木研究所）による現地調査  
現地調査の結果と今後の対策について大分県および日田市長へ説明・助言



7/6 TEC-FORCE, TEC-DOCTORによる調査状況



7/8 土砂災害専門家による調査状況



# 土砂災害ならびにTEC-DOCTORによる調査結果

## ■平成29年7月6日（木）

- ・ 活動内容：河道閉塞を形成した山腹崩壊箇所を調査し、河道閉塞の状況等について助言
- ・ TEC-DOCTOR：九州大学大学院農学研究院 環境農学部門 准教授 水野 秀明

### 【水野准教授による調査結果】

- ・ 河道閉塞の上流側において最大で6m程度の湛水が発生していたが、すでに2m程度水位は低下している。
- ・ 河道上の滯筋周辺で直径1～2m程度の石礫が確認され、河床勾配も1/80程度であるため、現時点で河道を閉塞した土砂が下流に土石流となって流出する可能性は低い。
- ・ 右岸の崩壊部については、地すべり専門家に助言をもらったほうがよい。

## ■平成29年7月8日（土）

- ・ 活動内容：崩壊した斜面を調査し、崩壊の状況と今後の斜面の監視・観測等について助言
- ・ 土砂災害専門家：国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム  
上席研究員 藤平 大 主任研究員 竹下 航

### 【土砂災害専門家による調査結果】

- ・ 崩壊の規模は、斜面長約300m、幅約200m、標高差100mと大きい。
- ・ 崩壊で生じた土塊は山腹に残存しているため今後の降雨等により再度崩壊する可能性がある。
- ・ 崩壊斜面下部の崖錐部、崩壊斜面よりも上方斜面の開口亀裂の有無などの確認が必要。
- ・ 監視・観測体制の整備と斜面に変状が生じた際にすみやかに避難が可能となる情報伝達体制を確立することが必要。